

親子読書『つなぐ～熊本の明日へ～』の感想より (R1年12月6日実施)

【1年】「みんなの どうぶつえん」

《児童》ぼくもいったことがあるどうぶつえんだったから、いまはきれいだけど、28ねんにじしんがあったからじめんがくすれたけど、いまはきれいになってよかったです。

《お家の方》9月に地震後初めて動物園へ行ってきました。所々、地震のときの状況をポスターで紹介してあり、大変さが改めてわかりました。

【2年】「光るえんがわ」(熊本の心)

《児童》さむいさむい雪の日でも、ちゃんとえんがわをふくなんて、えらいなと思いました。

《お家の方》拭き掃除のやり直しをさせられても、文句を言わない辛抱強さと光る縁側に喜びを感じられる心が素晴らしいと思いました。

【3年】「今 わたしのできること」

《児童》ぼくも、ほかの人を笑顔にする人になりたいです。

《お家の方》困ったとき、お互いに助け合える心を、家族みんなで育てていきたいなと思いました。

【4年】「熊本のたから再発見」

《児童》災害にあってこわいときも、男の子は、人と人とのつながりのパワーを熊本の再発見として見つけてすごいです。

《お家の方》熊本地震の後、テレビでとても明るく復興に向かっていく方々の様子を見たことを思い出しました。とても堪えられない現実を受けながら明るく振る舞う方々に、熊本の根を見たようでした。

【5年】「こわれた おじいちゃんの家」

《児童》ぼくも災害が起きたときには、くじけずにがんばろうと思いました。

《お家の方》家族で力を合わせれば何でもできると思います。頑張りましょうね！

【6年】「私に できること」

《児童》私は、熊本地震のとき何もできなかったけど、こういう人が一人でもいると助かるということがわかりました。

《お家の方》熊本地震の後、大変な思いをしている人の為に行動を起こせる人は沢山いて、その思いが困っている人の心にもしっかり届いている事がわかりました。

【たんぽぽ・ひまわり学級】「こわい思いのなかで」

《児童》地震はこわかったけど、みんなが助けてくれてよかったです。

《お家の方》子どもたちにとっても、大きな恐怖だったと思いますが、その後、沢山の人の手助けによって、少しでも安心できてよかったです。